



脱炭素ビジョン策定の背景と目的

背景

産業革命以降、温室効果ガス排出量が増加したことで地球温暖化が進み、現在、世界各地で気温上昇や大雨の増加といった気候変動という形でその影響が表れています。2019年12月に長野県が気候非常事態宣言を行い、国においても2020年10月に菅総理大臣が2050年カーボンニュートラルを表明するとともに、温室効果ガス排出量を2030年度に2013年度比で46%の削減を目指すこととしています。

目的

富士見町においても、2050年のゼロカーボン実現に向けた現状と課題を把握し、ただゼロカーボンを目指すだけでなく、取り組みを通じてさらに魅力あるまちを目指し、2050年ゼロカーボン実現までの道筋を描くために本ビジョンを策定しました。

検討事項

CO2 排出量実質ゼロを実現するためには・・・

- ✓「エネルギー消費量を減らす（省エネ化）」
- ✓「地域に再エネ電源を増やし、再エネ電力を使う（再エネ活用）」
- ✓「森林によるCO2 吸収量を維持・促進する（森林吸収炭素固定）」



出典：脱炭素ポータル

次回（広報5月号）は、「脱炭素を取り巻く国際社会の動向」について紹介します。

～自然環境と共生しながら脱炭素で豊かな暮らしを実現するまち～